別記様式１（日高町学校管理規則第１３条の５）

令和６年度　学校評価表

１　令和６年度の重点

生徒一人一人の資質・能力を磨き、人間性や寛容性を広げることで「自立と共生」の精神を育成
○　ＩＣＴ機器の活用により、個別最適な学びと協働的な学びの効率化を推進
○　生徒一人一人にとっての安全・安心な集団づくりと教育相談体制の整備
○　一人一人の進路実現に向けた適切な情報収集、生徒、保護者への十分な情報提供

２　学校評価結果の概要と今後の改善方策

| 評価項目 | 自己評価の結果 | 学校関係者評価の結果 |
|---|---|---|
| 学習指導 | ①　ＩＣＴ機器の活用により、個別最適な学びと協働的な学びの効率化を推進<br>②　基礎的・基本的知識が身につく授業づくりと一人一人の学力に応じた課題の提示<br>③　生徒の学習意欲を喚起させ、見通しを持って学習に取り組む態度が身につく評価の工夫<br>【指標】「ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用して、生徒個々に合った学習を指導できていると思いますか」の項目に対し、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答する教員を 100%にする<br>【結果】 85.7%　【自己評価結果】 B | 【自己評価の結果の内容の適切さ】 A<br>【今後の改善方策の適切さ】 A<br>【評価者の意見等】<br>・　基本となる１単位時間の授業の流れを研修したことは、とても大切だと思います。<br>・　教員相互で参観し合うことも、教職員としての資質-能力の向上につながると思います。<br>・　教員と生徒のアンケート調査の結果に乖離が見られることから、両者の間で意識の差があると思われます。 |
| 改善方策 | ・　教員向けに、授業でＩＣＴ機器を活用した個別最適な学習の例などを、研修等を通して発信し、教員相互で授業を参観する機会を設け、より一層の研鑽に努める。 | |
| 生徒指導 | ①　生徒の自己理解を深める指導･支援及び道徳教育の充実<br>②　指導･支援の重点項目、方法、手順の共通理解と全教職員が連携した組織的対応<br>③　生徒の自己管理や環境整備について外部機関と連携した指導･支援<br>【指標】 いじめアンケートにおいて、「いじめはどんな理由があっても絶対に許されない」と回答する生徒を 100%とするとともに、あわせて積極的認知を行い「いじめ見逃し件数０」とする。<br>【結果】 88.9%　【自己評価結果】 B | 【自己評価の結果の内容の適切さ】 A<br>【今後の改善方策の適切さ】 A<br>【評価者の意見等】<br>・　認知件数の増加は、見逃し０につながっている。重大事案になる前に対応できたという意識をもつことができると思う。<br>・　積極的な生徒指導を進める上で評価指標はいじめ以外の項目も必要ではないかと思います。 |
| 改善方策 | ・　生徒がＳＯＳを出しやすくなるような教育相談体制確立のために、研修等を通じて個々の指導の実践を振り返り、継続的改善に努める。<br>・　学校いじめ防止基本方針についてホームルームや集会等で生徒が定期的に目に触れる機会を増やし、いじめは人格を傷つける人権侵害行為であり、犯罪行為にもなるという認識を持たせる。 | |
| 進路指導 | ①　３年間を見通した系統的な計画に基づく教職員の連携した指導･支援<br>②　自己実現や進路実現に向けて判断力が身につく指導･支援の工夫<br>③　一人一人の進路実現に向けた適切な情報収集、生徒、保護者等への十分な情報提供各学年に応じて、生徒１人１人に視点を当てた、きめ細やかな進路指導を行う<br>【指標】北海道高等学校「学習状況調査」において、「高校入学前に比べ、高校卒業後の進路についてより真剣に考えるようになった」の項目に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答する生徒を 100%にする。<br>【結果】 92.6%　【自己評価結果】 B | 【自己評価の結果の内容の適切さ】 A<br>【今後の改善方策の適切さ】 A<br>【評価者の意見等】<br>・　アンケート結果について前年度よりも向上していることに対して評価に値します。生徒数が少ない中、きめ細かな指導と地域と連携した取組が高評価につながっているのではないでしょうか。今後の取組についても期待します。<br>・　評価が高く、先生方の指導が行き届いていると思いました。 |
| 改善方策 | ・　進路行事（インターンシップ等）や授業（調べ学習等）、教員との面談等の中で、生徒自身が卒業後の進路を意識して考えられるような仕組みを、キャリア支援係を中心とし、学校全体で組織的に行っていく。 | |